

まちづくり・  
コミュニティ

町会・自治会

防犯・防災・  
みまもり

こども

教 育

シニアライフ

健 康

スポート

芸術・文化・  
趣味

環 境

ふくしと  
サポートNPO・  
ボランティア

国際交流

男女共同参画

農業・商工業

ホーム &gt; 市民レポーター &gt; 柳窪の「村野家住宅」

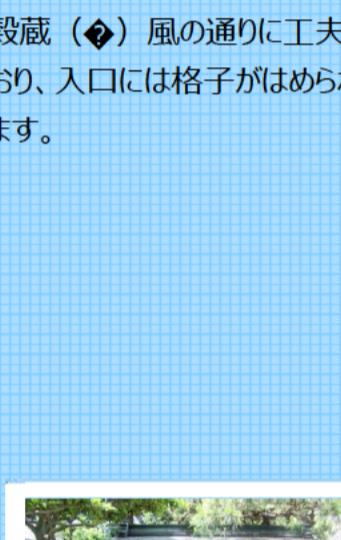
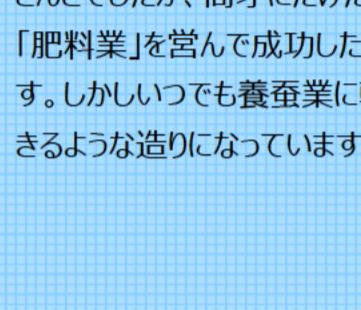
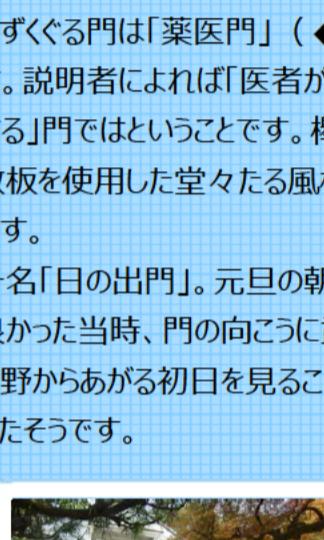
## 柳窪の「村野家住宅」



今年1月「村野家住宅」の主屋7件が国の「登録有形文化財」に登録されました。5月末から主屋の茅葺作業があると聞いていたのでがタイミングをのがしました。しかし6月9日に見学会があると聞き出かけてきたのでレポートします。

「文化財」対象建造物は7つですが、1つの家屋にこれほど多くが対象となるのは、珍しいそうです。(以下対象家屋には◆～◆を附します)

市民記者：球歩



主家(◆)です。主要部分は1838年、約170年前の建造です。この当時は養蚕業を営む農家がほとんどでしたが、商才にたけた初代は「肥料業」を営んで成功したそうです。しかしこれでも養蚕業に転業できるような造りになっています。

穀蔵(◆) 風の通りに工夫されており、入口には格子がはめられています。



新蔵(◆)、穀蔵に隣接しています。明治中期建造で、蔵座敷を有しますが、これは蔵番の住まいであったようです。

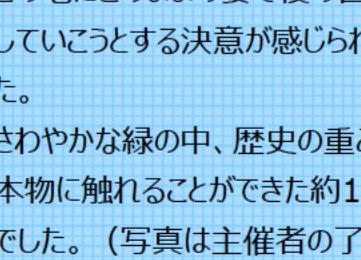
中雀門(◆)。前庭と奥庭を隔てる門です。今回の文化庁の調査で大正期の風雅さを残すものと価値を認められたのだそうです。

新蔵(◆)で、明治後期建造です、窓がとてもモダン。建造当初は赤いトタン板屋根だったそうですが、昭和に現在の銅板に吹き替えられました。隣の主家の茅葺屋根とのコントラストが面白い。

これで登録対象となった7建造物の紹介はおしまいです。

4,000坪の広い敷地の一部には、茶畠が広がっております。

「村野茶園」の一一番茶の摘み取りは5月13日。そのお茶と柳窪小麦のまんじゅうがふるまわれました。まんじゅうには「柳窪の柳」の刻印。



最後に五代目当主、村野敬一郎氏の説明がありました。

この地にこのままの姿で後の世に残していくことを決意を感じました。

さわやかな緑の中、歴史の重みと本物に触れることができた約1時間でした。(写真は主催者の了解を得ております)

前の画面へ戻る

▲ページトップ